Ⅰ　研究の概要

１　研究主題

個性を生かし、協働して課題を解決しようとする児童の育成（第３年次）
－国語科「読むこと」の指導の工夫を通して－

２　研究主題設定の理由

(1)　今日的課題から

平成２９年３月３１日に学校教育法施行規則の一部改正と小学校学習指導要領の改定が行われ、新小学校学習指導要領等は令和２年度から全面実施、平成３０年度から一部を移行措置として実施することとなった。

この新小学校学習指導要領の「前文」では、教育基本法第１条の教育の目的及び、第２条に掲げる５つの目標を示した上で、「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」としている。

また、「第１章　総則」「第１　小学校教育の基本と教育課程の役割」の２では、「学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、第３の１に示す主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、次の(1)から(3)までに掲げる児童の実現を図り、児童に生きる力を育むことを目指すものとする。」とし、その(1)では、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、児童の発達の段階を考慮して、児童の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮すること。」としている。

(2)　学校教育目標との関連から

本校の教育目標は「考える子」「たくましい子」「思いやりのある子」である。協働して課題を解決するためには、課題の解決方法について深く考え、粘り強く取り組み、他者と協力し合うことが不可欠であることから、本研究主題は学校教育目標と深く関わるものと考える。

(3)　本校の実態から

本校の児童は、明るく素直で、他者を思いやった言動をとることのできる児童が多い。また、学校全体としては、落ち着いて向上心をもって学習に取り組むことができている。朝の読書の時間に集中して本を読むことができるなど、読書に対する意欲も高い。

しかし、国語科の令和元年度の学力テストの結果から、「読む能力」については、十分であるとは言えない状況であり、また、「読む能力」の不足が他教科の学習の習熟に影響を与えているとも考えられる。

そこで、研究主題「個性を生かし、協働して課題を解決しようとする児童の育成」

の第３年次として、今年度は、国語科「読むこと」の指導の工夫を追究することで、本校児童の学力向上を目指したいと考えた。

以上の理由から、本研究主題を設定したものである。

３　研究の方針

(1)　個性を生かし、協働して課題を解決しようとする児童の育成について、全職員の共通理解のもと、全校体制で研究を行う。
(2)　研究課題解明のために、目指す児童像を明らかにし、研究の目標を明確にする。
(3)　研究実践を計画的に積み上げていく中で、児童の変容を的確に捉え、その成果を確認しながら研究を推進する。
(4)　学力向上推進リーダー派遣事業等との関連を図り、関係諸機関からの指導助言を受け、さらに先進校の研究を生かしながら研究を推進する。

４　研究主題の捉え方

個性を生かし、協働して課題を解決しようとする児童の育成（第３年次）
－国語科「読むこと」の指導の工夫を通して－

(1)「個性を生かす」とは

一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識して個性を発揮するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重することであると考える。

(2) 国語科において「協働して課題を解決しようとする児童」とは

人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力を高め、学び合うことにより課題を解決しようとする児童であると考える。

５　目指す児童像

国語で正確に理解し、適切に表現する資質を基に、
互いの立場や考えを尊重し、
学び合って課題を解決しようとする子

６　研究の仮説

互いの立場や考えを尊重し、高め合う学級・学校づくりに努め、言語環境の整備、読書活動の充実、語彙力向上などの取組によって確かな言語能力を育成し、これらを基盤とした協働して課題を解決する国語科の授業を創造することにより、互いの立場や考えを尊重し、国語で正確に理解し、適切に表現する資質を基に、学び合って課題を解決しようとする子を育成することができるだろう。

7　研究内容

研究の焦点化を図るために、今年度は「説明的な文章」の指導の工夫を研究対象とする。

①「構造と内容の把握」の学習過程における工夫【C（1）ア】

★叙述を基に、文章の構成や展開を捉えたり、内容を理解したりすること。

学年	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
内容	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。	段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

②「精査・解釈」の学習過程における工夫【C（1）ウ】

★文章の内容や形式に着目して読み、目的に応じて必要な情報を見付けることや、書かれていること、あるいは書かれていないことについて、具体的に想像することなど。

学年	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
内容	文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

③「考えの形成」の学習過程における工夫【C（1）オ】

★文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、自分の既有の知識や様々な体験を結び付けて感想をもったり考えをまとめたりしていくこと。

学年	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
内容	文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。	文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

④「共有」の学習過程における工夫【C（1）カ】

★文章を読んで形成してきた自分の考えを表現し、互いの考えを認め合ったり、比較して違いに気付いたりすることを通して、自分の考えを広げていくこと。

学年	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
内容	文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

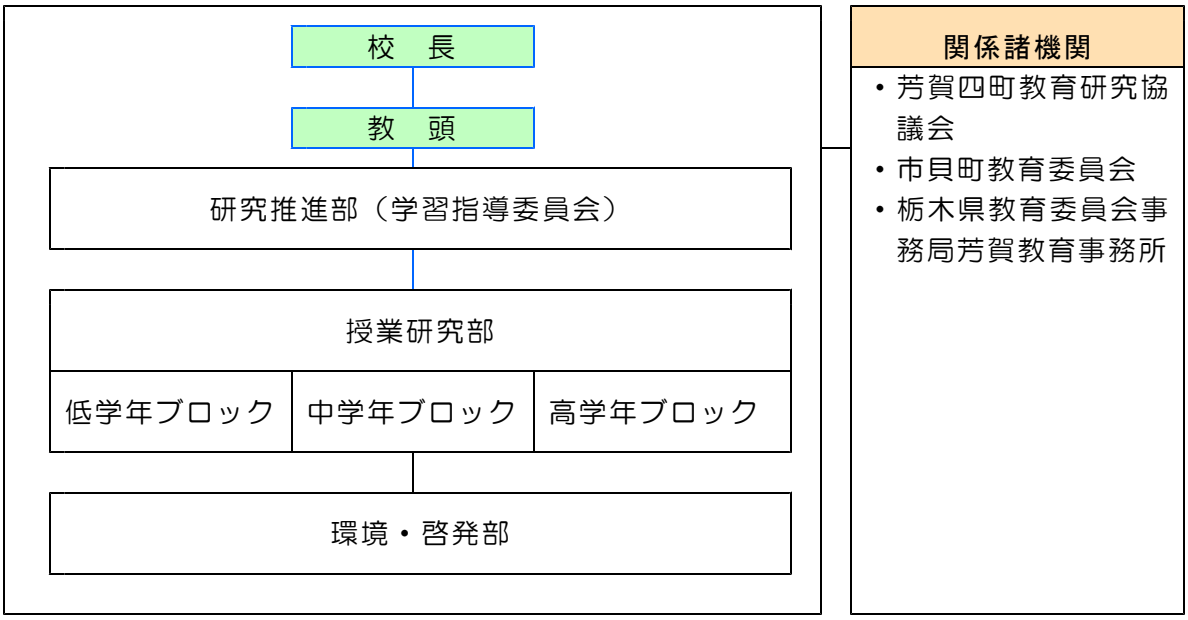
◎「読むこと」の言語活動例◎

学年	第1学年及び2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
ア	事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。	記録や報告などの文章を代に、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。	説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。
イ	学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。	学校図書館などを利用し、辞典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。

★研究単元★

学年	指導時期	単元名 「教材名」（時数）	学習指導要領の内容 【思考力、判断力、表現力等】	
			⑴指導事項	⑵言語活動例
１	１月下旬 ～２月上旬	○くらべてよもう 「子どもをまもるどうぶつたち」 （１４時間）	ウ	ア
２	１０月上旬 ～１０月下旬	○どうぶつのひみつをさぐろう 「ビーバーの大工事」 （１５時間）	ウ・カ	ウ
３	１月下旬 ～２月上旬	○世界の家のつくりについて考えよう 「人をつつむ形－世界の家めぐり」 （１１時間）	オ・カ	ア
４	１０月上旬 ～１０月下旬	○くらしの中の「和」と「洋」について調べよう 「くらしの中の和と洋」 （１４時間）	ウ・カ	ウ
５	１月下旬 ～２月上旬	○テクノロジーの進歩について考えよう 「『弱いロボット』だからできること」 （７時間）	ウ・オ	ア
６	１０月中旬 ～１１月上旬	○町の未来をえがこう 「町の幸福論－コミュニティデザインを考える」 （１３時間）	ウ・カ	ウ

8　研究組織



9　研究予定

月	日	項　　目	内　　容
６	１０	研究課題研修会	○研究推進計画・研究内容検討
６	２４	研究課題研修会	○研究内容検討
７	８	研究課題研修会	○研究内容検討
２学期	期日未定	研究課題研修会	○指導案検討（ブロック） 2年「どうぶつのひみつをさぐろう」 4年「くらしの中の『和』と『洋』について調べよう」 6年「町の未来をえがこう」 ○研究授業（１０月～１１月に分散して実施） ○授業研究会（全体）
１		研究課題研修会	○指導案検討（ブロック） 1年「くらべてよもう」 3年「世界の家のつくりについて考えよう」 5年「テクノロジーの進歩について考えよう」
２	３	研究課題研修会	○研究授業（1/28～2/3） ○授業研究会（全体）
	２６	研究課題研修会	○今年度の研究の振り返り ○次年度の研究計画